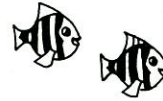


サケ

分類：ニシン目 サケ亜目 サケ科  
 学名：Oncorhynchus keta  
 英名：Chum salmon

北太平洋に分布し、北アメリカ側ではサンフランシスコ、日本では太平洋岸の利根川、日本海では福岡県的那珂川が遡河の南限で、相模湾で稚魚の見られることもある。産卵期は日本では9月～1月、アラスカでは6月～11月で、河川の緩やかな砂礫底に産卵し産卵後の親魚は斃死する。産卵期の雄は雲状斑の婚姻色を呈し、吻端が突出し鉤状に曲り、俗に「サケノハナ曲リ」と称される。稚魚は2月～5月に河川を降り海洋生活に入り、孵化後3～5年で元の河川に回帰する。嗅覚が発達していて、川の臭いをかぎ分けるとされている。海洋での餌料は動物性プランクトン、ハダカイワシ、イカ等で、日本人に新巻、塩引き等で最も親しまれ、北洋鮭鱒漁業の中の最重要種で漁獲も多い。シロ(サケ)、アキアジ、トキシラズなどと呼称されることもある。



ヒメマス

分類：ニシン目 サケ亜目 サケ科  
 学名：Oncorhynchus nerka  
 英名：Kokanee (米国産ヒメマス)

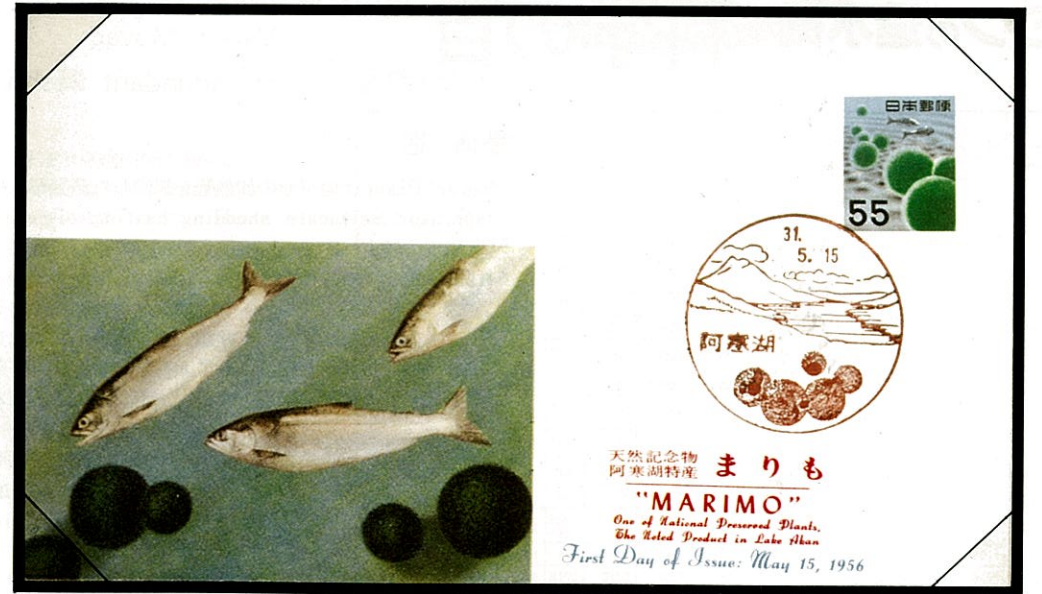
ベニマス(ベニザケ)の降海性を失った型と考えられ、日本での原産地は阿寒湖とチシケップ湖で、ここで採卵したものを支笏湖へ移殖し、更に各地の湖沼に移殖したもので、日本での生息地は上記の他、洞爺湖、パンケ湖(北海道)、十和田湖(青森・秋田県)、沼沢沼(福島県)、湯ノ湖、中禅寺湖(栃木県)、芦ノ湖(神奈川県)等で、水が冷たく深い湖沼が生息に適し、夏期高温時には深層に移動する。食性は動物性プランクトンを主とするワカサギやスジエビなども捕食する。産卵期は十和田湖では9月下旬から10月下旬である。降海型のベニマス(ベニザケ)は北太平洋に分布し、アメリカ側ではカリフォルニアのサクラメント川、日本では千島のエトロフ島が南限で、北洋鮭鱒漁業の最重要種で主に缶詰にされ輸出される。産卵期には雌雄とも朱紅色及緑褐色の婚姻色を呈し、雄は吻端が突き出て、頂部が隆起する。



1969. 9. 1



1956. 5. 15



1956. 5. 15